



令和4年度

「しが中学生おすすめ本50選」優秀作品



(著者名の50音順に並んでいます)
(氏名の有無は本人の希望によります)

1 『レインツリーの国』 有川 浩 著 新潮社

皆さんは、好きな事を誰かと共有したいと思ったことはありませんか？今はネットで誰とも繋がる時代。顔も名前も知らないけど、好きな事について楽しくお喋りできたら嬉しいですね。その人と会うことも出来る。この本は、伸とひとみがネットで出会う物語。しかし実際に会ってみると、ひとみの様子がおかしく会話ができなくて心がすれ違ってしまふ。2人の壁は何なのか？そして、乗り越えることが出来るのか…。

(MIHO 美学院中等教育学校3年 長久保 日菜さん)



2 『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』 青柳 碧人 著 双葉社

誰もが知る童話の世界で起こる殺人事件。主人公は赤ずきん。毎話違う童話が舞台となりそれを赤ずきんが解決する。トリックも童話内の設定を前提にしてあるが、幼い頃からなじみのあるおとぎ話ばかりのため、もちろんファンタジーな世界観にも関わらず頭に入りやすい。このシリーズ独特の雰囲気、ページをめくるたび、飲みこまれていく。童話の世界を侮れない、しっかりとしたミステリーをぜひ楽しんでほしい。

(長浜市立びわ中学校2年)

3 『ジョジョの奇妙な名言集 Part4~8』 荒木 飛呂彦 著 集英社

漫画ジョジョの奇妙な冒険の第四部から第八部の中でも、たくさんの人たちへと勇気や、生き方、考え方を教えた言葉がかかれた本。また、その言葉の解説をつけ、ジョジョを読んだことの無い人にも、わかりやすくなっている。この本を、読めばきっと自分のあり方や、生き方さえもわかり、生きる勇気がわいてくる。この本には、勇気も人生もつまっているそんな本だ。

(東近江市立朝桜中学校3年 吉田 絵人さん)

4 『劇場版アニメ ぼくらの七日間戦争』

伊豆 平成／宗田 理 原作 KADOKAWA

私がこの本をオススメする理由は、ずばり「勇気」です。ぼくらシリーズの未来の話であり、様々な場面で主人公たちが勇気を出して行動します。また、話の途中で、大人になるとはどういうことか、という問いがあり、改めてその意味を考えさせられる作品です。主人公の考え方の変化や恋愛要素も入っていて、見所がたくさんある作品です。是非、一度手に取って読んでほしい一冊です。

(東近江市立朝桜中学校3年 岩切 さくら さん)

5 『今夜、世界からこの恋が消えても』 一条 岬 著 KADOKAWA

「病気なんだ私。前向き健忘って言って、夜眠ると忘れるの。一日にあったこと、全部」突然告げられた事実。しかしそれでも透は記憶を忘れてしまう彼女を支え続け楽しい日々をおくった。明日僕を忘れてしまう君と忘れられない恋をする感動のラブストーリー。だがラスト、誰も予想をしなかった衝撃の事実が明らかになる。私はこの作品を読んで、一つ一つの言葉が刺さり人間の儚さ尊さを知ることができた。

(滋賀大学教育学部附属中学校2年 木下 萌々さん)

6 『探偵が早すぎる』 井上 真偽 著 講談社

これは推理小説であるが、普通の推理小説とは一味違う。それは、探偵が、事件が起きる前に解決してしまう点だ。だから事件一つあたりの物語の長さがとても短い。しかしこの拍子抜けする位の短さに本格的なトリックと綿密な推理が凝縮されているため、読後には確かな満足感が得られる。5兆円の遺産や癖の強い一族、そして何より早すぎる探偵。日常の生活に飽きて、非日常的な世界を見てみたい人に、読んでみてほしい。

(長浜市立びわ中学校3年)

7 『火喰鳥』 今村 翔吾 著 祥伝社

火喰鳥は、今村翔吾さんの手がける全十三巻のシリーズ本で、江戸時代に頻繁に起こっていた放火に立ち向かう火消たちの物語です。火消というのは江戸時代、今でいう消防隊のような人たちのことをそう呼びます。火喰鳥はその記念すべき第一巻目であり、主人公が火消になった理由やその仲間たちとの出会いが描かれていて、非常に読み応えのある本となっています。ぜひ、第十三巻と長く続く火消の物語を手にとってみてください。

(東近江市立朝桜中学校3年 中川 温仁さん)

8 『本好きの下剋上』 香月 美夜 著 TOブックス

そこの本が好きなあなた!もし本がない世界にあなたが生まれ変わったらどうしますか?自分で本を作って自作の本を読む?それとも諦める?この主人公のメインちゃんは本をこの世界で読むことを諦めず、本を作ろうとします。しかも自分一人で作ろうとせずに周りの人の手を借り、巻き込みながら作っていきます。メインちゃんの本に対する熱い気持ちを感じながら読んでみてください。

(長浜市立びわ中学校2年)

9 『コーヒーが冷めないうちに』 川口 俊和 著 サンマーク出版

「ここに来れば過去に戻れる」という噂の喫茶店の話。その店に来た4人の女性が繰り広げる話に心動かされ涙を流さずにはいられない。「恋人」に登場する二美子と五郎の話には、あることがきっかけで2人は別れることになったが、二美子はある条件を守って過去に戻りもう一度五郎と話をすることができた。過去に戻っても現実はかわらないが、4人の女性たちが過去に戻って告げられる衝撃の事実には私たちが驚嘆せずにはいれない。

(MIHO 美学院中等教育学校3年 谷 百花さん)

10 『最良の嘘の最後のひと言』 河野 裕 著 東京創元社

「年収 8000 万で超能力者を 1 人採用する」これは、ある世界的大企業の出した採用試験。自称超能力者の彼等 7 人は 1 通しか無い採用通知書を賭け、最終試験という名の一夜限りのバトルに挑む。彼等の思いも寄らない策略と最良の嘘とは一体何なのか。身の毛もよだつ新感覚のノンストップ・ミステリが今ここに。きっと貴方も彼等の嘘と真実に惑わされる。有り得ない程の疾走感と興奮を貴方へ。

(MIHO 美学院中等教育学校 3 年 中橋 佳子さん)

11 『君と会えたから』 喜多川 泰 著 ディスカヴァー・トゥエンティワン

この本は、僕に「今日一日を大切に生きる」ことの大切さを思い出させてくれました。僕は親に大切に生きるようにと言われたことがあります。でも、なんとなくダラダラと過ごしてしまい、一日が終わってしまう。こんな日が多く、なかなか毎日一生懸命に生きることが難しいと思います。この本を読むことで一日を有意義に過ごすための「ライフリスト」やそれによって成功をつかむ方法も学べるので、何回も読んでほしいです。

(東近江市立朝桜中学校 3 年 藤田 愛斗さん)

12 『ようこそ実力至上主義の教室へ』 衣笠 彰梧 著 KADOKAWA

皆さんは実力が全ての学校へ入学することになったらどうしますか？普通なら思う存分に自分の力を発揮しますよね。この作品の主人公綾小路は、実力を ABCD 順に分けられたクラスの中で、不良品と言われている D クラスに配属されます。この学校では、特別試験というクラスの順位を上げるために必要なクラスポイントを、策や罠を使い奪い合います。その中、陰で策を張り実力を隠す綾小路が起こす大逆転がとても爽快です。

(MIHO 美学院中等教育学校 3 年 猿渡 由也さん)

13 『私は私のままで生きることにした』 キム・スヒョン 著 ワニブックス

この本は、今を生きる普通の人へのいたわりと応援を詰めこんだ、何が正解か分からない世の中で自分を認めて愛する方法を伝えてくれる本だ。私は今まで生きてきた中で、人を信じるのが怖いと思ったことがたくさんあった。心の中では「もっと頑張ろう。」と思っていたのに、何もできなくて自分を嫌いになったこともたくさんあったが、この本を読んでから変わることができた。

(東近江市立朝桜中学校 3 年 森島 一葉さん)

14 『余命 10 年』 小坂 流加 著 文芸社

これは、余命を 10 年抱えた 1 人の女性の生涯を書き綴った物語です。“余命”という名の呪いを美化せず、驚愕する程鮮明に残酷さを感じさせる作品で、涙する程彼女に感情移入してしまうことでしょう。決して全てをやり遂げ、美しく消えた訳ではない。ところが彼女の消え方は儂く、誰もの目に美しく映ることでしょう。ぜひ一度、彼女が終わるまでの長くて短い一生を、ごらん下さい。

(長浜市立浅井中学校 1 年 八木 心晴さん)

15 『たいのおかしら』 さくら ももこ 著 集英社

『たいのおかしら』という本は、さくらももこさんの人生が描かれているエッセイです。短いお話が20個ぐらいあって、読んでいて全然あきません。自分の好きなお話を見つけてくり返し読んだりしています。また、おもしろく描かれているのでくすくすと笑えるお話がたくさんあります。たくさんのシリーズがあるのでおすすめです。

ぜひ、読んでみてください。

(長浜市立びわ中学校1年)

16 『100万回生きたねこ』 佐野 洋子 著 講談社

感動する絵本を探している人に是非読んで欲しいです。100万回生きて、100万回死んだねこの物語です。このねこは、100万回の出会いの中で嫌な事ばかりだったのが、ある時好きな事が見つかりそこから少しずつねこの考え方が変わっていきます。私は皆さんにこの絵本を2回読んで欲しいです。特に2回目はねこの心情と行動に注目して欲しいです。

(MIHO 美学院中等教育学校3年 志村 俊祐さん)

17 『この世界にiをこめて』 佐野 徹夜 著 KADOKAWA

「あい」ってなんだろう。漢字で書けば「愛」になるし、数学で「i」は虚数になる。そんな虚数軸上に過ごしている主人公に、半年前に自殺した天才小説家といわれた女の子からメールがくる。「死んだはずの女の子からメールなんてくるはずない」という疑いの気持ちと、生きてると信じたい気持ちの交錯がある。自分と主人公を同じ立場に置き換えて、人生について深く考えられる本です。

(MIHO 美学院中等教育学校3年 山田 佳嗣さん)

18 『僕は上手にしゃべれない』 椎野 直弥 著 ポプラ社

私が紹介する本は、ある一人の男の子が主人公となった本です。その少年は「吃音症」という言葉がつまったりする症状を抱えています。私は、この症状をこの本を読んで初めて知りました。私がこの本を手にとった時タイトルである「僕は上手にしゃべれない」に心を動かされました。人間関係や将来に不安を抱きながらも努力する姿やそれを支える人たちなどのやさしさなどに感動します。この本を読み、今を大切にしようと思いました。

(長浜市立びわ中学校2年)

19 『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』 汐見 夏衛 著 スターツ出版

「あなたたちが命を懸けて守った未来を、私は精いっぱいに生きます。」そんなことを思ったことはあるだろうか。加納百合は、全てにイライラして過ごしていた中学2年生。ある日、目を覚ますとそこは戦時中の日本だった。「愛する人たちを守るために俺は死にに往くよ」と揺るぎない瞳で告げる佐久間彰に出会い百合は少しずつ変わっていく。戦争とさまざまな形の愛をかけ合わせたストーリーによって、きっとあなたが見る世界が変わる。

(滋賀大学教育学部附属中学校2年 関 幸花さん)

20 『さよなら嘘つき人魚姫』 汐見 夏衛 著 一迅社

私がこの本をおすすめする理由は、1人で抱えこまずに周囲の人を頼るといふことの大切さが分かるからです。この本の2人の主人公は大きな苦悩を抱えています。それを周囲に打ち明けることはなく、1人で耐え続けていました。「死」という言葉を強く思う2人ですが、周囲の人を頼ることで、「生きたい」という気持ちを持つようになります。誰にでも、悩みはあると思ったので、私はこの本をおすすめしたいと思いました。

(東近江市立朝桜中学校3年 保海 舞七さん)

21 『きみの友だち』 重松 清 著 新潮社

友だちって? 「クラスの人気者だと思っていた」恵美だが交通事故の後孤立してしまう。そんな中、ある事件を機に病気がちな由香と二人だけで過ごすように。「いなくなっても一生忘れない友だちが、一人、いればいい」私は恵美の言葉で気づいた。みんなと当たり障りなく友だちでいようとする私達。だが、本当の友だちは互いに自立し、尊重し、本音をぶつけ合える人。依存ではない。様々な人の物語。読み終えるとき、あなたも気づく。

(滋賀大学教育学部附属中学校2年 船寄 雅美さん)

22 『小説 はたらく細胞』 清水 茜 著 講談社

『はたらく細胞』という本は体内にある様々な細胞が体内に入ってきた菌から体を守るストーリーです。細胞たちの個性豊かなキャラクターや菌を倒したり、スカッとする場面などが面白いです。中学校2年生の方は理科の授業で体内にある細胞などの勉強をします。そういうときも『はたらく細胞』を読めば、少し勉強してみようという気持ちになるかもしれません。ぜひ読んでみて下さい。

(草津市立松原中学校3年 森田 雄真さん)



23 『縞模様のパジャマの少年』

ジョン・ボイン 作 / 千葉 茂樹 訳 岩波書店

舞台は、第二次世界大戦下のベルリン。ユダヤ人収容所の近くに引っ越してきたナチス軍人の父をもつ八歳のブルーノと、収容所に入っているユダヤ人の同い年のシュムールとの幼い友情物語。二人の間にあったのは、張りめぐらされた鉄条鋼。ブルーノの父の仕事はユダヤ人への惨すぎる残虐だった。そんな事とは知らない二人は、シュムールの父を捜しに収容所内へ。無垢故に子供達が巻き込まれた。あまりにも恐ろしく衝撃的すぎる結末。

(長浜市立びわ中学校1年)

24 『チーズはどこへ消えた?』 スペンサー・ジョンソン 著 扶桑社

僕が紹介する本は『チーズはどこへ消えた?』です。この本では、これからの社会について多くのことを学ぶことができます。例えば、「従来どおりの考え方をしていれば新しいチーズは見つからない。」この文は、社会に出て、今まで通りの考えでは通用せず、異なった視点から物事を見ることが大切だと教えてくれます。このように、社会について多くのことが本の中に書かれてあるので、ぜひ読んで欲しいと思いました。

(滋賀大学教育学部附属中学校2年 赤尾 瞭さん)

25 『か「」く「」し「」ご「」と「」』 住野 よる 著 新潮文庫

人の心が読めたらどのような生活を送るのだろう。それは非現実的な話だが、人の心が読める人達にスポットを当てたのがこの物語だ。私たちは、人の心が読めれば生活しやすくなるのではないかと考えるだろう。だが、この物語は人の心が読めるからこそその苦しさが描かれている。主人公は私たちとも歳が近い高校生の男女5人。友情と青春を同時に描いた、共感と涙なしでは読めないであろう物語。

(県立河瀬中学校3年 高屋 紗央さん)

26 『麦本三步の好きなもの』 住野 よる 著 幻冬舎

この本は、何でもない時間が好きな麦本三步のお話です。三步はおっちょこちょいで、よくぼおっとしたりします。三步の失敗に笑ったりしてしまいます。そんな三步に私は共感するところがあります。短めの話が12話あり、少しの時間でも読む事ができます。本を読み終わった後は、自分もこんなことがあったと思える話です。

(MIHO 美学院中等教育学校2年 石見 優花さん)

27 『あと少し、もう少し』 瀬尾 まいこ 著 新潮社

この本の魅力は、何かを目標に立ち向かう時に、たとえ失敗したとしても、自分を信じて前進する姿は多くの人々に希望や勇気を与えられるというところにあると思います。今、中学三年生で大変な時期だからこそ、読み取ったり、感じ取ったりできることは多いですが、僕はこの本を読んで、どんなに悲しいことやつらいことがあっても自分を信じて前へ進み、多くの人々に希望や勇気を与えられるよう、日々頑張っていこうと思いました。

(東近江市立朝桜中学校3年 保海 祥真さん)

28 『そして、バトンは渡された』 瀬尾 まいこ 著 文藝春秋

この本は、家族の形が七回も変わり幾度とない出会いと別れを経験してきた優子とその家族の物語。優子の強さ、美味しそうな食事の描写、個性溢れる親たち…。たくさんの魅力が詰まった一冊である。「バトン」とは何を意味していたのか。その「バトン」は誰に渡されたのか。それが分かったとき、心がじんわり温まり、幸福感に包まれるはず。2019年に本屋大賞を受賞したベストセラー小説。ハンカチを用意することを忘れずに。

(長浜市立びわ中学校2年)

29 『アーモンド』 ソン・ウォンピョン／矢島 暁子 訳 著 祥伝社

僕たちの日常は喜怒哀楽といった自分の気持ちと隣り合わせ。しかし何に対しても無感情なのがこの本の主人公の「ぼく」。目の前でお母さんが刺され意識不明になった時も。「無感情の「怪物」と不良少年の「怪物」が出会いたくさんの経験をしていく。そして最後にぼくがお母さんにみせたものとは?!人間とは何かを当たり前ではないのが当たり前の日々を送るぼくから学ぶ人間の存在意義のこの本は心温まる感動物語となっていきます。

(滋賀大学教育学部附属中学校2年 西村 優成さん)

30 『動物と話せる少女リリアーネ③ いるか救出大作戦』

タニヤ・シュテーブナー 著 学研プラス

リリアーネとイルカが助け合うお話です。リリアーネは動物と話ることができる能力を持っています。その能力が役に立つときもあれば、大さわぎになってしまうこともあります。動物たちと話しながらきずなを深めていくというすてきなお話です。動物とお話できるなんて、とっても理想的なことだと思います。自分がリリアーネになったつもりでこの本を読んでみるのもいいかもしれません。ぜひ、この本を手にとってみてください。

(長浜市立浅井中学校1年 清水 星蘭さん)

31 『ホームレス中学生』 田村 裕 著 ワニブックス

この本は現在お笑いタレントとして活躍している田村裕氏が過ごした壮絶な中学生生活を記した本です。中学二年生一学期の終業式の日「明日から夏休み」と心踊る気持ちで帰宅すると全ての家具が差し押さえとなっていた。そこで兄姉と父が帰ってきて父が「もう家には帰れなくなりました。解散!」と告げた。ここから田村裕少年は公園に住むことになる。同じ中学生なため、細かい心情に共感すると思います。ぜひ読んでみてください。

(滋賀大学教育学部附属中学校2年 渡邊 真大さん)

32 『屋上のテロリスト』 知念 実希人 著 光文社

この本の中では、ポツダム宣言を受諾しなかった日本のその後が描かれていたり、広島・長崎の他に新潟にも原子爆弾がおとされていたりと、本当にありえたかもしれない世界観でハラハラドキドキする。また、話の中で起こる出来事が本当のことなのか、仕組まれたことなのか考えながら読むことによって、引き込まれていく。いがいな展開がいくつもあるので、自分もだまされる。

(長浜市立びわ中学校3年)

33 『硝子の塔の殺人』 知念 実希人 著 実業之日本社

この本は、1つの殺人事件からくり広げられる謎だらけの事件やトリックを、名探偵が諦めそうになりながらも解決していくお話です。またこの謎解きの中で、トリックを暴く鍵となるものの挿し絵があり、読者も一緒に推理することができ、プロローグから7人の犯人を中心として進んでいくため、登場人物の1人として読むことができます。そんな魅力や面白さがつまった作品になっています。

(東近江市立朝桜中学校3年 福泉 玲奈さん)

34 『残像に口紅を』 筒井 康隆 著 中央公論新社

この本は、一日に一文字ずつ言葉が消えてゆく物語です。「あ」が無くなれば、「ありがとう」や「あなた」も消えてしまいます。言葉が減っていくにつれ、その場に応じた言葉が減り、言葉使いが悪くなっていきます。普段、意識せずに使っている言葉ですが、この本を読むことで会話の中での言葉選びの大切さについて考えさせられます。

(MIHO 美学院中等教育学校3年 犬伏 翔也さん)

35 『記憶喪失になったぼくが見た世界』

坪倉 優介 著 朝日新聞出版

主人公、坪倉優介は交通事故で記憶喪失になる。初めは食べたり眠ることさえできない。しかし年月を重ねるごとに日本の人間社会というものを、大人というものを理解していく。記憶を失ったにも関わらず、自分のやりたいことを追求するには心打たれるものがある。結果的に彼は草木染作家となる。僕はこの小説を読んで何事も「やればできる」ということ、命の大切さというものを学ぶことができた。ぜひ、読んでみて欲しい。

(滋賀大学教育学部附属中学校2年 宇野 宏紀さん)

36 『天使は奇跡を希う』 七月 隆文 著 文藝春秋

物語の舞台は愛媛県今治市。主人公の良史の学校に自称天使の優花が転校してくる。良史は優花に「私を天国に返して」と言われ、天国への帰り方を見つけ出す手伝いをする。能天気な優花の行動に困らせられる良史だがそんな優花に少しずつ惹かれていった。だが優花には彼の為についてある嘘があった。その嘘を知ったときっと貴方の目から一筋の涙が。命の尊さ、儂さを教えてくれ、読者の心をも揺さぶる青春ラブストーリー。

(MIHO 美学院中等教育学校3年 大本 萌水美さん)

37 『HELLO WORLD』 野崎 まど 著 集英社

もし、未来を変えられるならあなたは何を変えますか。私は、未来の自分が人生の岐路に立ったときに正しい選択ができるように助言したいです。この本は、主人公の肩書直実が十年後の自分と出会い、時空を超えて未来の彼女を救う話です。私は主人公が言った「お前なら」「できる」という言葉が印象に残りました。私は勇気を持って行動することで大切な人を守ることができる人になりたいです。

(滋賀大学教育学部附属中学校2年 吉澤 奏音さん)

38 『かなしきデブ猫ちゃん』

早見 和真 文／かのう かりん 絵 集英社

この本は、「吾輩も“ネコ”である。名前なんか、知らない。」という文章から始まり、捨てネコカフェで拾われ、“マル”と名付けられたデブ猫が、広い世界に飛び出してたくさんの仲間や、恋人と出会い、大冒険を通して、自分に自信を持ち、平穏な毎日が、どれほど尊いか、人を許し、やさしくすることが、どれほど大切かを学ぶ物語です。イラストもかわいらしく、優しい気持ちになれるので、ぜひ読んでみてください。

(長浜市立びわ中学校1年)

39 『自閉症の僕が跳びはねる理由』 東田 直樹 著 KADOKAWA

この本は、実際に強度の自閉症を抱えている作者が13歳の頃に書かれた本です。自閉症を抱えている自分がこの病気とどう向きあっているか、短い文で1つ1つ書かれています。私は身近に自閉症の人が何人かいて、もっと自閉症のことについて知りたかったと思っていました。この本を読んで、この時はこんな風を感じているんだとなんとなく分かった気がして、もっと自閉症という個性を持っている人に近づけた気がします。

(長浜市立びわ中学校3年)

40 『永遠の0』 百田 尚樹 著 太田出版

映画にもなっている百田尚樹氏のデビュー作です。主人公は、当時の帝国海軍人としては珍しい、命を大切にする戦闘機搭乗員、宮部久蔵…と現代を生きる彼の孫。誰よりも命を大切にしていた彼は、どうして家族を遺して“特攻隊員”として還らぬ人になったのか。彼の同僚だった、部下だった、生徒だった人から語られる、彼の姿とは…。戦争が奪う、命の大切さを教えてくれる小説です。

(草津市立松原中学校2年)

41 『霊視るお土産屋さん 千の団子と少女の想い』

平田 ノブハル 著 光文社

物語の主人公、俵燈子。天真爛漫で明るい性格だが、三度の失職を経験しており、その傷心旅行の際、とある琵琶湖のほとりにあるお土産屋さんの社長に声をかけられた。そしてそこで働くことになった燈子。ただ、そのお土産屋は、商売ともう一つ霊に関するお悩み相談をしていた。社長の息子のひどく無愛想な甲斐とともに、燈子は靈感が無いながらもお悩み相談に乗り出す!舞台は我らが地元滋賀県。ぜひ読んでみてください。

(長浜市立びわ中学校1年)

42 『終末少女』 古野 まほろ 著 光文社

醜い怪物蠢く、真夏の孤島で矢国を目指す少女たちが主人公のミステリ作品。この作品の魅力はなんといっても色彩やかな描写と、主人公たちの切ない心情と、そして何よりページをめくる手がとまらなくなる美しく残酷な構成だろう。特にラストの意外な結末には心を奪われてしまう。ひしひしと迫る絶望の中で少女達はそして読者は何を思うのか。ぜひこの儚い世界の美と恐怖をとくと味わってみてください。

(長浜市立びわ中学校3年)

43 『15歳のテロリスト』 松村 涼哉 著 KADOKAWA

これは十五歳の少年の犯行予告から始まった一つの物語。誰もが虚言だと思っていたにも関わらず、実行されてしまった。犯行の謎を問い詰めるべく少年に歩み寄る一人の記者。自分が逮捕されるまで行動を止めない少年。ある時、記者はこの少年の行動には理由があるということに気づく。ごく普通の少年がテロリストになった訳とは?少年の行動に隠された真実に気づいた時、驚きと感動で必ずもう一度読みたくなる作品です。

(滋賀大学教育学部附属中学校2年 片岡 彩友さん)

44 『わけあって絶滅しました。』 丸山 貴史 著 ダイヤモンド社

この本はその名の通り、昔の生き物がなぜ絶滅してしまったのかを紹介した本です。しかしこの本と他の本には大きな違いがあります。それは、他の本より面白おかしく描かれているということです。また、ページを開くと最初に目に入る大きな文字で絶滅した理由が書かれているのですが、ざっくりと書かれていて、つい気になってしまい見いてしまいます。おもしろいので、みなさんも見てはどうでしょうか。

(長浜市立びわ中学校2年)

45 『夢をかなえるゾウ I』 水野 敬也 著 文響社

最近の私はやる気なし、実行なし、とにかく何をするのもめんどくさい。なので両親からは注意され、母からの小言は特にうるさい。そんな私に母がすすめたのがこの本だ。今の自分を変えたい主人公に人生の秘訣を教えるという話。29の課題はそんなに難しくはないものばかりだった。「決めたことを続けるための環境をつくる」「明日の準備をする」をまず続けてみよう。何より大事なものは「実行すること」。実行できれば成功できるかな。

(滋賀大学教育学部附属中学校2年 田中 康太郎さん)

46 『コンビニ人間』 村田 沙耶香 著 文藝春秋

私は、この本を読み終えた後「普通」とは何かを考えた。主人公の古倉恵子は幼少期から性格が周りの子と年が近い妹と比べると変わっていた。それは現在の36歳になっても変わらなかった。コンビニ店員になるまでは…。それ以降18年間ずっとコンビニ店員をしている。今まで、社会不適合者だと思っていたが店員をしているときだけは唯一社会に必要だとされていると考え始め、コンビニの仕事に依存していく奇妙さがとてつもなく面白い。

(東近江市立朝桜中学校3年 服部 香桜さん)

47 『5分後に意外な結末』 桃戸 ハル 著 学研

この、『5分後に意外な結末』シリーズは、とても有名で知っている人も多いと思います。本の題名にある通り、本当に1話につき5分で気軽に読了できます。そして、この本の良いと思うところは、ひとつひとつの話が、とてもクオリティーがたかく、どこから読んでもはずれはありません。意外性の高い、よんでいてワクワクする内容がたくさんつまっているのので、ぜひ読んでみてほしいです。

(長浜市立びわ中学校2年)

48 『余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話』

森田 碧 著 ポプラ社

「一日でも、一時間でも一分でも一秒でも長く生きる。」この本は余命一年の男子高校生が余命半年の女子高校生と出会い、時間が刻々と過ぎて行く中で、気持ちや考えが変化していく話です。余命宣告された二人が一秒でも長く生きようとする姿は思わず涙してしまいます。また、何気ない日常を送れることの喜び、生きることの素晴らしさを感じることができます。心が動かされるこの小説をぜひ一度手に取って読んでみてください。

(東近江市立朝桜中学校3年 大池 琉依さん)

49 『パズル -48時間戦争-』 山田 悠介 著 KADOKAWA

この『パズル』という本は、有名進学校が占拠され、残されたクラスの生徒だけで隠された2000ピースのパズルを探し、完成させなければ人質が殺される—。という状況で協力しながらパズルを完成させる物語です。超エリート校で勉強しか興味がなかった生徒達の命を懸けたゲーム。本当に大切なもの。とは何かを考えさせられる話です。そして生徒は48時間以内にパズルを完成させられるのか—。ぜひ読んでみて下さい。

(長浜市立びわ中学校1年)



50 『ぼくは満員電車で原爆を浴びた 11歳の少年が生きぬいたヒロシマ』

米澤 鐵志 著 小学館

この本は、原爆が落とされた広島で11歳だった米澤さんの体験した内容が、どの年齢層にも分かりやすく書かれたものです。言葉にするのも難しいくらいに生々しい苦難が丁寧に綴られており、特に、心情描写と情景描写の織りなすインパクトは戦争について、そして人間について深く考えさせられます。情景描写の中でも比喩表現が印象的であり、熱戦によって皮膚がただれてしまった人を「ゆうれい」に例えるなど独特ですが秀逸です。

(東近江市立朝桜中学校3年 山部 海月さん)